

第6回 避難者健康診断「10年続けることを確信」



2月7日神戸協同病院で避難者健康診断を実施しました。兵庫民医連では、原発事故の放射能の被害により避難された被災者のニーズに応え、甲状腺エコーを含む健康診断（県連内の事業所で年に2回実施）を、2013年8月から行い、今回で6回目となります。当日は47名21家族（内科21名小児科26名、避難元別では福島県20名、宮城県2名、千葉県11名、埼玉県4名、神奈川県1名、東京都9名）が受診されました。

医師体制は内科2診（番町診療所：松岡医師、東神戸病院：滝本医師）、小児科3診（いたやどクリニック：木村医師、東神戸病院：森岡医師、保険医協会：辻医師）でした。4回目から保険医協会の山中医師の協力（スタッフ3名含む）により、本格的な眼科検査が行われました。今回もオール兵庫民医連+保険医協会+ボランティアで総勢47名での健診が行われました。

外来待合の真ん中に陣取った遊びスペースにジャンボリー職員と子どもたちは元気に遊び回り、過去に受診している子どもさんもあり、再開した職員も成長に驚きつつ、検査慣れしていることに複雑な思いもありました。医学生（金谷さん）も参加し、「被災地域の人々の身体的苦痛だけでなく、よくわからない不安、経済的影響も考えていきたい」との感想、多くの学びがあったようです。今回も兵庫県弁護士会(2名)にも協力いただき相談コーナーでは2家族の対応をしていただきました。職員からは「生活不安、将来不安、人間関係が絡み合って今回の健診が一番根が深い深刻さを感じた」「家族がどう決断され今も何を悩まれているのか教えていただいた」「甲状腺エコーは福島の検査に比べてとても丁寧にしてくださり感謝された」「健診続けていく意義がわかった」「避難＝ゴール安心ではないと感じた」「避難しても精神的、身体的な不安をずっと抱えて気が休まらない状態なのに原発再稼働や避難者補償打ち切りの国の対応は許せません」等感想が出ました。病院としては2回目、参加要員も複数回参加しており、フロアマネージャーの中村事務次長の采配もあり、手順、流れはスムーズでしたが、出された課題を被ばく対策委員会で総括しさらにバージョンアップを図っていきます。（被ばく対策委員 松本理花）